

会報

# 彩の国

平成29年9月 No.

167



埼玉土地家屋調査士会



## 土地家屋調査士倫理綱領

### 1. 使 命

不動産に係る権利の明確化を期し、  
国民の信頼に応える。

### 2. 公 正

品位を保持し、公正な立場で  
誠実に業務を行う。

### 3. 研 鑽

専門分野の知識と技術の向上を図る。

表紙写真・・・『初夏の空』（狭山支部 篠原 剛会員）

東京会の先生の手伝いで東京都西多摩郡瑞穂町を訪れた折、現場の道路向かいにあった向日葵畑の向日葵と、台風が過ぎ去った後の荒い雲の浮いた空とのコントラストが綺麗だったので、境界標を撮影するついでに写真に収めました。何気ない作業の合間にも、素敵な景色に巡り会えるものですね。

会長の挨拶	埼玉土地家屋調査士会長 高柳淳之助	2
新任副会長・部長の挨拶	副会長 高橋 修	4
	副会長 廣居 英夫	5
	副会長 古賀 新生	6
	総務部長 金子 義和	7
	財務部長 戸井田 修	8
	業務部長 市川 幸秀	9
	研修部長 高柳 吉男	10
	広報事業部長 竹村 博之	11
黄綬褒章を受章して	浦和支部 森田 重之	12
法務大臣表彰を受賞して	大宮支部 大谷 和夫	13
日本土地家屋調査士会連 合会理事就任にあたって	熊谷支部 松本 嘉明	14
新支部長紹介		15
第72回定時総会		23
日調連 第74回定時総会		24
関プロ 第63回定例総会		25
新入会員紹介		26
トピックス	平成29年度 ボウリング中央大会	31
編集後記		33



# 会長就任にあたって

埼玉土地家屋調査士会 会長 高柳淳之助

会員の皆さんこんにちは。去る5月18日に行われました埼玉土地家屋調査士会第72回定時総会にて、多くの方々にご支持をいただき会長に選任されました高柳淳之助です。会長というには未熟な点が多々あるとは思いますが、会員の皆様ひとりひとりのお力添えをいただきながら、精一杯務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いたします。

立候補に際しては、未来の大局的な変化に対する考え方をいくつか述べさせていただきました。これから先は、より一歩前進した形で考えを進めていきたいと思ひます。

1. 私たちが関わっている不動産登記情報システムは、社会の根底をなし安定を保つ重要な制度です。その管理は専門家の見識により一元的に管理されるべきです。これを守っていくのが、私たちの第一の使命であると思ひます。

「データと実態の乖離」に由来する非効率性のため、不動産登記情報システムとは別に、不動産総合データベース構想が萌芽の状況にあります。これから一層注視していく必要があります。

2. 「所有者不明地(所有者の所在の把握が困難な土地)」問題については、固定資産情報との一元化とそれを可能にする環境作りを提唱しました。かつて行われた「台帳一元化」です。近い将来AI(人工知能)によるデータベースの集約化は十分に可能だと思ひます。

これらに関して平成29年6月9日の閣議決定された、規制改革実施計画の分野別実施事項の

官民データ活用の事項に、次のような趣旨の記述があります。

不動産登記情報等の行政機関内連携として、行政機関内の各種台帳等の情報連携により、最新の所有者情報などをよりの確に蓄積し、これを行政機関内で共有し、さらに一定範囲でオープンに利用できる仕組みについて、その構築のための政府としての推進体制を決定する。(平成29年度検討・結論)

「所有者不明地」というキーワードは、世の中を動かすツールとして定着しつつあります。固定資産情報との一元化、その環境づくりのための情報発信を続けていきたいと思ひます。

3. 新時代のパブリック概念として、連合会が推進している「境界紛争ゼロ宣言」活動のサブタイトルとして、「境界情報は社会の共有財産です」「所有者不明地は境界不明地です。立会確認を!」といったキャッチフレーズを埼玉会独自で追加し、境界立会の社会的重要性を発信していく広報活動を展開して行きたいと思ひます。

4. 登記行政に関わる法務局・司法書士会との連携を強化します。

現在、法務局・司法書士会・土地家屋調査士会との連携で「相続登記推進」運動が行われていますが、私たち土地家屋調査士の関わる要素が少ないのが現状です。

これを「相続登記推進」から「登記推進」「建物登記推進」にまで運動をレベルアップしていく必要を訴えていきたいと考えています。そもそも相続の対象となる「権利の客体」が明確でない

土地は多数ありますし、登記されていない建物も多くありますから。登記の公示機能を十全に果たして行くには、表題部のインスペクションをおろそかにしてはなりません。

5. 以上のような活動や連携を通じて、私たち土地家屋調査士の業務を、不動産登記情報システムのなかにもどう位置づけていくのかを考えていきたいと思えます。必要とされる制度面での改革、特に立会に関する汎用ルールを明確に位置づける方策とは何なのか、セットアップを含めた提案をできればと思えます。先が見えない時ほど本業に立ち返り、全リソースを集中させることが大事だと思います。

6. 大きな話ばかりになってしまいましたが、従来通り県内市町との「災害時における家屋被害認定調査に関する協定」や空家対策事業への協力、境界問題相談センターの活動などの社会貢献事業も地道に継続して行く予定です。

また、会務運営全般の運営方針としては、自分たちの立場をPRするだけでなく、自分たちは何を求められ、それに対して何を提供できるのか、そういう「マーケットイン」の発想から事業を見直していく事も必要だと考えています。

以上どこまでできるかわかりませんが、バトンを持って走り続けることを約束いたします。会員各位におかれましては特段のご理解とご協力を賜り、本会活動に積極的に参加・協力をよろしくお願い申し上げます。





# 副会長就任にあたって

副会長 高橋 修

第72回定時総会におきまして、副会長に選任されました越谷支部の高橋修です。今期の総務部と財務部を担当させて頂くことになりました。

前期には、初めての本会役員として財務部長を拝命し「変化を生むことで成長し、努力の先に達成がある。」そんな思いを胸に財務部長を勤めてまいりました。この2年間で、会員数は22名減少しました。本会の収入は会員の皆様からお預かりする会費と入会金ですので、各部の事業執行にあたっては、経費の削減を図りながら、その質を高めていただくという難題に取り組んでいただきました。お陰様で、収入と支出のバランスの取れた予算執行ができたと考えております。今期は、さらにこのハードルは高くなりますが、新財務部役員と知恵を絞りながら、財政の健全性の維持を図って行きたいと思っております。

総務部は、時に多忙を期す仕事です。本会に寄せられる苦情、さらには懲戒案件の増加は顕著です。近年、専門家としての立ち位置は、かつて

の「先生にお任せします。」から説明責任と助言義務が問われる時代へと移ってまいりました。そして個人・職業・組織において「倫理性」の要請がますます重要な役割を果たす社会になりました。土地家屋調査士会は、その職業の公共性と倫理性が強いため強制加入制がとられている数少ない職能団体です。公益法人としての倫理を遵守し、自主的規律の維持が図れるように、総務部理事の方々と力を合わせて、事業計画を執行してまいります。

最後になりましたが、調査士を取巻く社会情勢は日に日に厳しさを増しております。この2年間の任期を廣居副会長、古賀副会長と力を合わせ、埼玉土地家屋調査士会の発展と制度の拡充のために、高柳新会長を補佐し会務運営を支えていく所存です。会員の皆様のご理解、ご協力を賜わりますようお願い申し上げます、副会長就任の挨拶とさせていただきます。



## 副会長就任にあたって

副会長 廣居英夫

この度、埼玉土地家屋調査士会、第72回定時総会において、副会長に就任いたしました春日部支部の廣居英夫でございます。

会員の皆様には、平素より埼玉土地家屋調査士会の会務や事業の運営について、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

先の副会長に立候補した時、副会長として成すべきことはと、私なりの思いを述べさせていただきました。

会長の事業方針に基づき、各部長がその方針にしたがって事業計画を発表し、会務を執行していくこととなります。その時、副会長は、会長がめざす会務運営をサポートしながら、理事と連携を保って会務を執行していかなければなりません。つまり、副会長の職務は、会長と理事のパイプ役であると同時に、会務に対して常に考え提案していかなければなりません。

副会長の職務分掌において、研修部と広報事業部の担当になりました。先の定時総会において、土地家屋調査士として社会的使命を全うするため、業務を公正かつ誠実にやり、品位の保持に努め、資格者専門家としての自覚を促すため、研修会等を通じて資質の向上を図ってまいりますと、総務部長として事業計画を発表いたしました。主に、業務研修・技術研修・法令研修・倫理研修などがありますが、現在から将来に至るまで、土地家屋調査士として何の研修が必要あるかと考えながら、バランスのとれた研修を企画運営していかなければなりません。今後も日常業務に関する研修と、土地家屋調査士としてさらにスキルアップするため継続的に研修の充実を図り、会員の業務活動支援に取り組んでまいります。

広報事業部につきまして、埼玉会のホームページが新しくリニューアルしましたが、会員の方々から今一つ使いにくいという声が聞こえてきます。会員の皆様に有効活用していただくため、さらなる改善を進め会員に対し情報を速やかに発信して、情報の共有を図っていかなければなりません。

また、関連士業との交流の場として、埼玉友好士業協議会があります。本協議会は、弁護士会・司法書士会・土地家屋調査士会など11士業で構成され、専門職能団体が相互の理解と協調を深めるとともに、社会的使命を図ることを目的に、「暮らしと事業のよろず相談会」などの事業を行っております。

そして、関連士業との制度広報をより強化なものにするため、協議会に参加されていない宅地建物取引士による不動産の売買において、地積測量図の重要性が欠かせない中での不動産業界との連携、あるいは建築確認においても、その建物の敷地の確定と正確性が求められることから、建築士会などとも連携を深めていかなければならないと思っております。

副会長に就任して2か月が過ぎましたが、これまでの経験を活かして埼玉土地家屋調査士会の発展のため何をなすべきか、皆様とともに考えながら副会長の職務に邁進していきたいと思っておりますので、皆様のご理解とご支援を宜しくお願い致します。



# 副会長就任にあたって

副会長 古賀新生

本会に、平成19年より理事として、研修部次長を一期、平成21年に資料センター室長として一期、そして、平成23年に理事として、業務部次長を一期、平成25年より業務部部長として二期勤めさせていただきました。

これも、会員皆様のご支援があったから、やって来られたと改めて感謝しているところです。

実務の中で土地家屋調査士の知識と技術を、日々会員として向上させて行くことが必要と思います。

法律や規則は、日々研修を積み重ねて実務に即した調査もしていると考えております。

しかし、測量については、測量会社を営んでいる土地家屋調査士は別として、誰もが精通していると言えるかどうか疑問なところがあるのではないのでしょうか。

測量士に、笑われないような測量の基本と考え方を、習得して行くために、力を入れたいと思っております。

依頼者は違います。資格者である以上専門家としての知識と技術が備わっていると、依頼してくると考えます。

今までも本会では、会員すべての資質の向上を目指し各部所は日々、会務運営に取り組んでおります。

業務部担当として微力ながら三期勤めさせていただきました少しでもできる事があればと立候補し副会長として勤めているところです。

会員の皆様の地位向上のため、業務に関連した事柄について伝達していければと考えております。

我々土地家屋調査士は、筆界を探し出す唯一の資格者であり、国家資格を合格し多くの研修

や歴代の諸先輩方の経験に学び、素晴らしい知識を積み重ねて参りました。

それをどう活用していくかだと思います。そのためには、知識と資料に基づく筆界の位置付けをし、自信をもって依頼者や隣接者に説明し、納得させるだけの力を付けていなければならないと思います。

そのためには、図面をどう読み取るか。それには、読み取る手順のような物があるのではないかなど、これから取り組んで行きたいと思います。

我々が作成して表示登記申請に添付している地積測量図は、地積更正・分筆などで提出された図面です。

年代により社会背景の中で作成された物で、この図面をどう読み取り現地に復元出来るかが土地家屋調査士にかかっています。登記所や市町村に保管されている、図面や申告図面をどう解析するか、また公図をどのように読み取るか。

土地家屋調査士が持っている知識と分析を養うためにも基礎的知識と技術の習得が必要と考えております。

私は、立候補の趣意書の中でも書きましたが、これらの事を進めることが役目だと思っております。

土地家屋調査士の責任において筆界を探し出す専門家として、まず、県民に認めてもらうよう威厳を示していこうではありませんか。

最後に、土地家屋調査士が、一人一人高い理想を抱いて知識と技術の習得を、私を含め日々の調査・測量に頑張ってください。

多くの会員に意見やお叱りをいただきながら誠心誠意努めさせていただきますので、今後ともよろしくお願い致します。





# 総務部長に就任して

総務部長 **金子義和**

この度、総務部長を拝命いたしました上尾支部の金子義和です。

総務部長は、新人会員の面接もします。新規登録の方にお会いし、話をしていると自分の入会当時を思い出します。

土地家屋調査士登録は昭和54年12月31日、埼玉土地家屋調査士会に入会したのは昭和55年2月2日です。当時は浦和地方法務局の土地家屋調査士名簿に登録してから埼玉会への入会でした。

私が上尾支部長の時、平成17年3月に上尾出張所が日本初のオンライン指定庁になりました。オンライン申請実証委員の一人として第1号の申請(土地地目変更登記)に参加していました。埼玉会の3階会議室で午前中から作業を開始しましたがなかなか送信出来ず試行錯誤し、申請書を送ることが出来たのは午後4時を過ぎていました。

私は会員として38年目を迎えました。土地家屋調査士という資格を取得しこの仕事に就いたおかげで今の自分があります。土地家屋調査士制度に感謝をしております。支部の役員や支部長そして今回総務部長をお受けしたのも、少し

でも私にできることがあればとの思いからです。

総務部所管及び総務部長が出席する会議・委員会は、常任理事会、理事会、支部長会議、紛議調停委員会、注意勧告理事会、ブロック懇談会、土地家屋調査士法施行規則第39条の2に係る調査、新春交礼会等々。

総務部長に就任し2ヶ月あまり、会議の多さに驚きましたが、前述の会議・委員会は、会員の品位を保持し業務の改善進歩を図るために大切な会議・委員会です。総務部としては、事務局のご協力を得てこれらの会議が円滑に進行するようにし、会務執行の効率的な運営に努めてまいりたいと思います。

私は支部の役員を長く経験しました。会員相互の連帯感や埼玉会への帰属意識の向上の為に、支部長との連携が大切だと考えています。

総務部には、頼りになる古澤武理事(次長)、相沢博理事、小澤由喜夫理事がおります。会長、副会長、常任理事の皆様にお力添えをいただき総務部長の職責を遂行していきたいと思っております。会員の皆様のご支援とご協力をよろしくお願い致します。



# 財務部長就任にあたって

財務部長 戸井田 修

早いもので5月18日の総会で常任理事を拝命して11週間が過ぎました。今まで年に1回行くか行かないかという浦和の街に足繁く通うようになって気がついたことがあります。県庁前の通りに並ぶ商店街はきらびやかですが、通りを一本入ると昔ながらの古い街並みが残っていて、アナログな自分は何となく嬉しくなったりします。

「裏門通り」のある喫茶店で休憩していると、カウンターに立つご主人が私と同郷とわかり、昔話で盛り上がったり。3.11の時も全然棚から落ちなかったという、自慢のコーヒー茶碗がずらりと並んでいます。



先日は、平日にもかかわらずたくさんの会員にボウリング大会にご参加いただき、ありがとうございました。この場を借り、支部長、会員、事務局の皆様に御礼申し上げます。財務部では、東松山支部のご協力のもと、11月にスリーデーマーチも企画しております。更なるご参加を賜りたくよろしく申し上げます。

私は、前任の高橋修副会長のように、財務畑を歩いてきたわけではなく、会の運営にも全く明るくありませんが、とにかく、他の常任理事さんたちとよくよく連携をとりながら、埼玉土地家屋調査士会が日本でいちばんHAPPYな会となるよう尽力することを誓い、就任の挨拶とさせていただきます。

P.S. 竹村広報事業部長、次回は締め切り守るからね！



# 業務部長就任にあたって

業務部長 市川幸秀

この度、第72回定時総会後の理事会において、業務部長に就任させて頂きました川口支部の市川幸秀です。このような大役を仰せつかり、身の引き締まる思いでいっぱいであります。埼玉土地家屋調査士会業務部長として、会員皆様のために何が出来るのか、資質向上、一人一人のレベルアップ、様々な環境変化及び時代要求についていかなければなりません。1.空家問題 2.所有者不明土地 3.法定相続情報証明制度 4.オンライン申請 など研鑽が山積みであります。平成28年度地籍調査において、登記簿上の所有者の住所が不明な土地は、20.1%だそうです。

人口減少、少子高齢化、所有者不明等が主な原因となって、今なお増え続けている空家等の問題、我々の立会い業務にも少なからず影響があります。所有者不明の為、土地の有効利用も出来ません。阻害の原因を踏まえた解決のための手段、行政的手法、民事的手法等何があるのでしょうか。社会全体で考えていかなければなりません。

次に、法定相続情報証明制度であります。本年5月29日からスタートしました。

相続人が法務局に必要な書類を提出し、登記官が内容を確認した上で、法定相続人が誰であるのかを登記官が証明する制度です。この制度を利用する事により、相続登記を含む各種相続手続で戸籍謄本一式の提出の省略が可能となり

ます。申出の手続きについて、資格者代理人として土地家屋調査士も率先して関わっていただきたいと思います。

また10年経った筆界特定制度について、業務部(筆界特定対策委員会)にて特定の仕方、調査委員と専門官とのヒアリングの仕方を研究し、筆界特定された事例を分かり易くまとめ、会員が活用できる資料として配付(公開)できればと思っております。

また先日、連合会会長 岡田潤一郎先生とお話する機会がありましたので、ご報告致します。

「土地家屋調査士業務の重要性をアピールしてほしい」と、「土地家屋調査士業務の有用性・重要性がより広く認知されるようにたとえば建築確認時における適合性等の場面における地積測量図の必要性・重要性を関係機関にアピールする、とにかく私たち土地家屋調査士が作成する地積測量図の社会的ステータスを向上させていきたい」との事です。

皆さん、スキルアップ・技術に磨きをかけましょう。

おわりに、業務部長としてスタートしたばかりですが、会長の指導の下、会務運営に努めてまいりますので、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。



# 研修部長就任にあたって

研修部長 高柳吉男

この度、研修部長に就任いたしました大宮支部の高柳吉男です。

本会理事は今期で三期目となり本会の様子もそれなりに解っているものの部長と言う大役は流石に戸惑っております。前二期の素晴らしい部長達が何を考え何を行っていたか思い出しながら自分なりに楽しく研修部を盛り上げていこうと思っております。

さて、今期の研修は例年どおり年二回の会員業務研修会、CPD研修と新人研修が企画されております。毎年のことですが業務研修会やCPD研修は多くの会員が行きたくなるような研修を企画しています。

また前期より新人研修会は担当副会長及び研

修部全員で講師を務めなければならない自前の研修会になっております。

普段遣らない講師を副会長や理事、部員達が各々考え企画しながら行うのは新人研修会でしか見られない緊張した研修会です。また最後に質疑応答と座談会があります。

新人の先生方々はこぞって参加してください。

最後に今期の研修部のメンバーについて担当副会長の廣居英夫副会長、新岡章司次長、吉野淳司理事、根本幸一理事、小川哲也部員、木村千種部員に部長の私で総勢七名のメンバーで研修部を盛り立てていけるよう努力してまいりますのでご支援ご協力の程よろしくお願い申し上げます。





## 広報事業部長就任にあたって

広報事業部長 竹村博之

前期に続き、理事をお受けいたしました草加支部の竹村博之です。

平成9年に登録し、21年目になります。

またこの度は理事2期目ということで、広報事業部長を仰せつかりました。

部長という大役を引き受けたことになり私には荷が重すぎるのではないかとの思いです。

前期広報事業部長であった志木支部の高橋部長を次長という役で支えてまいりました。

私は前部長のように会務に精通しておりませんので、不安な気持ちでいっぱいです。

しかしながら、お引き受けした以上、身を引き

締めて広報事業に臨みたいと思っております。

広報事業部は私の他に理事が2名、部員が2名、委員が6名で他の部に比べ大所帯です。

広報事業部のメンバーは廣居担当副会長以下、若さとやる気あふれるメンバーで運営にあっております。

毎月の会務通信発行、年2回発行の会報編集、境界問題相談センター、災害家屋調査委員会等会務がスタートしております。

会員皆様のご理解、ご協力を戴き広報事業活動を行っていきたいと考えておりますのでよろしく願いいたします。





# お礼の言葉

浦和支部 **森田重之**

埼玉土地家屋調査士会を代表しまして、会員皆様にお礼を申し上げます。

平成29年、春の国家褒賞におきまして、はからずも黄綬褒章の栄に浴しましたことは、誠に身に余る光栄と存じます。

本年5月16日、法務省におきまして「褒章の記」と「褒章」の伝達を受け、引き続き皇居に参内し長和殿・春秋の間におきまして皇太子殿下に拝謁の榮譽とお祝いのお言葉を賜り、万感の極みでございました。

これもひとえに、法務局ご当局の格別のご高配と日本土地家屋調査士会連合会をはじめ皆様の多年にわたるご指導とご鞭撻の賜と深く感謝とお礼を申し上げる次第でございます。この気持ちを生涯忘れることなく一層精進を重ね、今後ともこの榮譽に恥じることはないよう、ご指導をお願い申し上げます。

昭和57年10月、(西暦1982年)に入会して35年間、先輩諸氏にご指導を戴き、その間支部の役職を拝命して、支部長3期6年間、埼玉土地家屋調査士会の理事、副会長として経歴を重ねてまいりました。土地家屋調査士制度の知名度の向上を検討し、会員皆様に協力をお願いしてまい

りました。土地家屋調査士制度の改革があり、厳しい時代を乗り越えていくため、埼玉土地家屋調査士会会員として、なお一層協力してまいりたいと思っております。

結びにあたり、皆様のご健勝とご多幸ご繁栄を心からご祈念申し上げます、お礼のことばとさせていただきます。

誠にありがとうございました。

平成29年7月吉日





## 法務大臣賞を受賞して 多くの方々に支えられた調査士人生

大宮支部 大谷和夫

私は、この度、日本土地家屋調査士会連合会第74回定時総会において、法務大臣表彰を受賞させていただきました。大変光栄なことと感謝申し上げます。

私は、昭和53年6月に埼玉土地家屋調査士会に入会しました。以後、今日まで大宮支部に籍を置き業務をしてきました。大宮支部の先生方は、入会したばかりの私を温かく迎えてくれました。土地家屋調査士発足当時から支部長であったO先生。裁判所の境界鑑定をなさっていたK先生をはじめ、個性豊かな先生方に囲まれ、調査士の原点を教えてくださいました。また、17条地図のモデル事業で浦和の五関地区を担当したこと。大宮支局のコンピュータ化に伴う地図整備事業などの仕事の中で多くの信頼できる仲間と巡り会えたことは、以後、私の業務のバックボーンになりました。また、O先生から「大宮調友会」という支部の名門ゴルフクラブに入るよう誘われたのが、ゴルフを始めるきっかけでした。

その後、本会の理事として研修部を担当しました。ここでも、すばらしい他支部の先生を知ることになります。私は、よく他支部の研修会も受講させてもらいました。熊谷支部はとくに思い出があります。熊谷支部が独自の登記基準点を支部会員で作る作業に、他支部の私も参加させていただいたこと。また、法務局がオンラインでの登記申請に移行するときには、パソコン音痴の私の為に、T先生は、目の前でパソコンを作ってくれました。このときの驚きと感激は今も忘れません。

「境界問題相談センター埼玉」も、S先生達と設立準備から担当させてもらいました。あれから12年が過ぎ、「境界問題相談センター埼玉」も

会員のご理解とご協力、紛争解決のために運営されていることは、頼もしい限りです。

私は、一会員として、また、本会の役員としていろいろな会務を担当させていただきました。今考えると、自由気ままに会務をさせてくれたフィールドを、私のような人間にご提供していただいた大宮支部の先輩や本会の会長をはじめとする多くの方々に深く感謝します。

私達の業務は、昭和25年7月31日土地家屋調査士法が制定され交付されたことにより始まりました。これ以後、土地や建物という大事な不動産を登記記録に登録し、安定させる業務を担当してきました。これから先もこの業務は変わらないでしょう。と同時に、新しい職域も生まれつつあります。土地の境界が不明なことを原因とする相談や調停を扱う認定土地家屋調査士業務。マスコミが取り上げ始めた、相続登記が未了のまま年月が経過して所有者が不明になった土地。結果として境界が不明になった土地。引取り手のない空家問題などです。このような問題は、土地家屋調査士が率先して取り組むことになる大きくて深刻な問題です。そして、土地家屋調査士試験の受験者が大きく減少していることも気がかかります。

さて、私は、「境界問題相談センター埼玉」のセンター長や法務局の筆界特定委員を経験し、現在も裁判所の民事調停員をしています。この中で、筆界特定であれば申請人と関係人、調停であれば申立人と相手方、訴訟であれば原告と被告というように常に相対峙する関係で事件は進行します。ここで、土地という、もう一人の大事な当事者を仲間に入れて、紛争の解決を試みてはどうでしょうか。物言わぬ土地の気持ちが理

解でき、土地の立場に立って発言、発信できるのは、まさに土地家屋調査士しかありません。このように考えていくと、私達の業務は、また、新しい分野の方向に向かう大きな希望が湧いてくる仕事ではないでしょうか。私も、受賞した感激を

新たな機会として捉え、土地家屋調査士制度の発展のために一層の研鑽と努力をする覚悟です。

そうそう、妻へのお礼を忘れるところでした、ありがとう。



## 日本土地家屋調査士会連 合会理事就任にあたって

熊谷支部 松本嘉明

このたび関東ブロック協議会より、役員選任に関する選考候補者として推薦を受け、日本土地家屋調査士会連合会の総会において理事に選任されました、熊谷支部の松本嘉明と申します。平成7年に土地家屋調査士を登録し、23年目になります。

この7月の5日、6日の理事会において研修部に配属されることが決まり、同日役員引継ぎ会、各部会も開催され、日調連の仕事が始まりました。

連合会には研修部をはじめ7つの部、制度対策本部、大規模災害復興支援対策本部、各種法改正対応、事務所形態検討等6つのプロジェクトチーム、法務委員会、オンライン登記推進室等18の委員会等があり、部以外にも分担して様々なポジションをこなさなければなりません。今までは埼玉会のための理事でしたが、違う立場になりましたので、全国の舵取り役という重責を担うことになり、身の引き締まる思いでいっぱいです。調査士の会員数の減少に伴い、受験

者数を増加させることも必要ですが、今後、特別研修、新人研修の体系等、効率が良い方向に転換改革をしなければならない事業が山積しており、法務省への提案打ち合わせ等、全力を尽くす決意であります。

さて愛媛会の岡田潤一郎氏が連合会の会長に就任しました。私としては、会長の事業方針に従い、一般市民に調査士制度の理解と認知度向上に努め、また、役員間でのズレや支障をきたす事の無いよう、足並みを揃えて運営が行えるよう、心掛けたいと考えております。

最後に、eラーニングのコンテンツについて、より充実した内容の研修をアップし、会員の皆様に視て頂けるよう努めます。それから、連合会は何をしているのかという疑問が無いように、各部が情報の発信を積極的に行う予定ですので、埼玉会におかれましても、メールで転送して頂ければと思いますし、皆様も一読いただければと思います。宜しくお願い致します。



# 新支部長

## 紹介

### 支部長就任にあたり



浦和支部

支部長 福島 雄一

私、先の4月28日の浦和支部定時総会において2期目そして3年目の支部長職を仰せつかりました福島雄一と申します。

支部長1年目は右も左もわからず諸先輩方かなりそして何度も教えを乞い、2年目は漸く段取りが分かり始めたところです。3年目になりますと、今度はテンションが上がらず困っております、というのが本音です。

支部長職は、一に支部会員への連絡・報告係り、二に本会と支部の橋渡し役、三に一般相談の対応係りが、私が感じている仕事です。

先日亡くなられた日野原重明さんや、瀬戸内寂聴さんや稲森和夫さんなどの著名人が仰る「人のために生きる」とか「利他」「奉仕」などの言葉は頭では理解出来るのですが、心がもう少し伴わないと感じてやまない今日この頃なのです。

というわけで、もう40代も後半戦なのに、まだまだ甘ちゃんの私です。修行僧にはまだまだ遠い彼方です。

土地家屋調査士の仕事は、特に測量の際はいろいろな方々に会えることは今でも楽しみでもあり、承諾印をもらえた際の爽快感もイモのどといつも思っております。

役職は順番だと割り切りつつ、土地家屋調査士は(特に趣味もない)私の道だ、天職だと思えるよう邁進するしかないのでしょうか。と、日々

紋々としている毎日です。

とりあえず、支部長職の就任の抱負はと聞かれれば、可もなく不可もなく浦和支部、現84名のため頑張ります。

で、宜しいでしょうか(笑)



### 支部長になって思うこと



川口支部

支部長 佐野 隆

私は、平成28年度川口支部定時総会において、29・30年度の支部長に選出され、1期2年の支部長を引き受けることになりました。

支部長と言えば、本会と支部の間のパイプ役、支部会員間の潤滑油的な役割で、少しでも川口支部のお役に立てればと就任いたしました。

支部長になる前は、本会の理事として「総務部次長」を、2期4年間つとめさせていただきましたので、本会の業務が、ある程度は、わかったつもりでいます。その経験を踏まえ、支部長の任を全うしたいと考えています。

わが川口支部は、歴代の支部長が苦心され、「総務部」、「研修部」、「厚生部」、「会計」と部門化され、各責任者を置き、支部活動の内容によって、それぞれの担当が決まっております。個々の支部主催の行事、本会行事等々にあたっては、支部役員会を開催し、担当部署を決定し、任せます。しかしながら、いくら担当の部があるからといって、すべてを各部任せでは、ことは進まず、

やはり、支部長自身が、自ら音頭取り、先頭に立つ」という姿勢を見せないと、いけない。

4月22日支部定時総会から約三ヶ月、支部役員の方々には、それぞれご協力を戴いて、各部員の協力を以て大いに助かっているところであります。この体制を以て、各部員のご協力で日々の支部活動を行ってゆけば、次の方が支部長職を引き受けるに当たっても、それほどの負担を感じなくてすむのではないかと、思います。

私たち土地家屋調査士は、PR不足だと等々よく言われたり、また調査士自らが自嘲気味に言ったりもします。しかしながら自分の事務所のPRはべつとして、埼玉土地家屋調査士会、土地家屋調査士制度のPRについては一人でも出来ます。各支部主催、あるいは本会主催、連合会主催の行事、講習会等々にご自身の都合がつく限り参加することです。調査士以外の外部の人が参加、あるいは主催する講習会、催し物等々はなおさらです。その際に、ご自身の資質向上を図るなどと言うケチな事はさておき、自分が参加することで調査士会のPRになる。「おれは、本会、調査士制度のPR活動を行っているんだ」ぐらいの気持ちに切り替えて、そういった視点で臨まれることを希望します。たとえ、その講習会の内容がいまいちなものであったとしても、あるいは自分の興味、業務にそぐわないものであったとしても、そういった視点を持ってとにかく参加する。参加することで仲間の顔を見る、新しい情報に接する、そういったこともあるのです。

「各種行事、講習会にとにかく参加する」それが、PRの第一歩。

## 支部長に選任され



志木支部

支部長 石田隆久

平成29年4月26日の志木支部定時総会において支部長に選任されました石田と申します。以前は副支部長を勤めさせていただき、その後しばらく支部活動に携わることもなく、そろそろ引退と思っていたのですが、支部長に選任され2年間支部のまとめ役を務めさせて頂くこととなりました。また、おかげさまで今年は埼玉会定時総会にて連合会長表彰を頂くことができました。これも支部の皆さんに入会時よりいろいろとアドバイスを頂いたおかげと感謝申し上げます。4月に私の調査士実務の師である元志木支部長の金子忠吉先生がお亡くなりになりました。このような時期に支部長というのは何か感じるものがあります。

私には人生訓としている2つの言葉があります。1つは亡くなった母親の口癖で上杉鷹山の言葉で「なせば成る なさねばならぬ何事も ならぬは人のなさぬなりけり」という言葉です。もう一つは学生時代の師である小原国芳先生の言葉で「人生の最も苦しい嫌な辛い損な場面を真っ先に微笑みを以って担当せよ」という言葉です。この人生訓をいろいろな時に言葉にして頑張ろうと思ったり、師の教えに従おうと思ったりしています。仕事に悩み行き詰まったとき言葉にして頑張っています。

志木支部は元埼玉会会長森田久稔先生の下で、まとまりのある支部を先輩諸氏が作り上げてきました。本会役員として今年も古賀副会長が頑張っており、理事としては吉原先生が加わり、ますます活躍していただけるものと思います。

つい何年前まで20年近く私の事務所がある新座地区には、新入会員がいなく寂しい限りでした。ここ数年は支部にも新しい会員が増え、今まで以上に支部活動が活発になることに期待をしております。

## 支部長就任にあたり



### 大宮支部

支部長 井野大佑

この度、大宮支部長に就任させて頂きました井野と申します。あらためて支部会員数75名の大宮支部長の重責を日々痛感しております。

私の役割は、支部会員のつながりを再構築する事にあります。幸い我が大宮支部には若く優秀な会員、そして経験豊富な先輩方が多数おられ、私も補助者時代から多くの先輩方、仲間達に育てられてきたように思えます。恩返しとは言えませんが、大宮支部のために仲間の助言を頂きつつ、魅力のある大宮支部にしたいと思っております。これからも皆様方のご指導、ご協力を何卒宜しくお願い致します。

としては大変心強く思っています。

さて、支部長就任後3ヶ月ほど経過しますが、その間に無料相談会、ボウリング大会、研修会と、順調に支部の行事を進めることが出来ました。

ちなみに、今後の支部行事としては、無料相談会、健康診断、バスハイク、研修会、新年会を予定しています。これらは概ね例年行っている行事ではありますが、多くの方に参加していただくことで会員同士の繋がりも出来ると考えています。

最後になりますが、会員の連携がより一層強くなりますよう、微力ではありますが支部長として努力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

.....

## 支部長就任にあたっての抱負とお願い



### 埼玉支部

支部長 青木政直

## 支部長就任にあたって



### 上尾支部

支部長 新井正美

本年4月27日の支部定時総会において承認をいただき、支部長に就任した新井正美です。

就任早々のことですが、桶川市の区画整理組合より当支部に対し、連休明けに予定されている従前地分筆に関する説明会への派遣依頼がありました。

そのため、定時総会終了後に桶川地区の会員の方をお願いしたところ、快く全員の方が引き受けてくれることになり、ほっとするとともに地区会員の方々に感謝した次第です。

また、今年度は当支部から理事2名を選考させて頂きましたが、本会ではそれぞれ総務部長、広報事業部を担当することになり、支部長

本年度、埼玉支部の支部長を仰せつかりました青木政直と申します。支部会員として、いつかは支部長を仰せつかっていくものと思っておりましたが、今回急遽ピンチヒッター的諸事情により繰上げ当選?となり支部長を拝命致しました。

先日は新支部長会議が初めて本会にて開催されましたが、各地の新支部長はとても個性豊かな方々がそろっており、私などは活発な支部長会議の議論に埋もれてしまうほど、一家言をお持ちの先生方が多くて大変楽しい貴重な経験をさせて頂きました。

埼玉支部の話させて頂きますと、最近ほかの支部の方々から、「埼玉支部は若くて元気があり勢いがあって良いですね。」とお褒めの言葉を頂くことが多くなりました。

実際、若い先生方も多いですし、支部役員も若い先生方に多く参加して頂いており元気がありますが、実はご年配の先生方も多く、出来ればもう少しご年配の先生方にも支部運営や支部行事に参加して頂きたいと考えております。それ

でも、他支部の方から「勢いがあるって元気がある」と褒められると嬉しいものです。カラ元気ではありますが、もう少し元気ハツラツ感を出して行ければと思っています。

まずはカタチからのカラ元気であっても、それが埼玉支部全体の盛り上げとウキウキ感につながれば良いなと思っています。

ここで本会執行部の方々に、誤解されないように一言だけ申し上げさせていただきますが、元気があると言われておりますが、あくまでカラ元気の所もありますので、何でもかんでも支部に丸投げなどなされない様に、くれぐれもお願い申し上げます。

ご存知のように本会執行部とは、理事以上の理事会構成員の全員の皆様方のことでございますので、宜しくお願い申し上げます。

支部運営は、我々支部長が各支部を背負っているとの自覚の元、日々一所懸命運営しております。本会理事の皆様方におかれましては、埼玉会全会員の運命を背負っているという自覚の元、活発なご議論の程お願い申し上げます。

.....

## 支部長就任にあたって



越谷支部  
支部長 伊藤 巧治

先の4月26日の第61回支部定時総会で承認頂きました支部長の伊藤巧治です。

私は工業高校の建築科を卒業後、建設会社に就職をしました。その当時、中学校の建設で、工期がなく、残業、日曜、祝日出勤はあたりまえで、ほとんど会社が嫌になっていた頃、私の友人の父親から、知り合いが土地家屋調査士の事務所を開業したので、補助者(当時は事務員と言われたと思う)を探しているといわれ、何の仕事かわからず、親に説明もできずに、この道に入り、37年になりました。

私共の越谷支部は、越谷市、吉川市、松伏町の

行政区からなり会員数は現在64名です。支部の活動は昔から活発で、ゴルフコンペについては年に2回開催し、7月に第54回を終了しました。そのほかには支部研修旅行、暑気払い、新年会と開催していますが、遊びばかりではなく、月例会を年に4回程度開催し、会員の意見、情報の交換の場として集まっています。

今年度からは、支部会員の高橋会員が、高柳会長より副会長の指名を受け、支部会員一同非常に嬉しく、頼もしく思っているところです。私も、今期支部長になり、高橋副会長は、頼もしい相談相手です。また、越谷支部は、先輩方をはじめ、後輩のかたがたとも非常に話しやすく、有能な方ばかりです。

これまで、歴代支部長が築いてきた事を大切にしながら、新しい事にもチャレンジしていきたいと考えています。

最後に、まとまらない文章ですが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願い申し上げます。

.....

## 支部長就任にあたって



春日部支部  
支部長 深津 重信

この度、図らずも支部長になり、本稿を書くことになりましたので、思いつくままお話ししたいと思います。

私が入会したのは平成9年で、バブル崩壊後の景気後退が続いており、沈滞ムードが漂うころでしたが、支部での会合は公式行事、有志による私的なものを含め頻りにありました(ほぼ毎月)。そこでの形式ある活動力と言うか、真面目な取り組みをする諸先輩方がいて、新鮮な経験をしたことを思い出します。

それから20年、当時活躍されていた方々が余力を残して退会することが多くなり、先の支部総会では支部長として入会当初よりお世話になった先輩方に支部功労者記念品をおくらせて

頂いたのは、何かご縁を感じました。

現在、支部会員33名で、その執行部は若手が多く、又相談役、役員にはベテランもあり年代バランスのとれた形です。歴代支部長が築いてくれた決まり事などを踏まえて入会時の活気ある支部運営を心がけていきたいと考えていますが、そうする為の人材には事欠かず、何か為になる催し(もちろん懇親会有り)をすることとなると平素有志で業務研究会を開いている方、月例会長(私的会合の会長さん)など、実に協力的で、大変助けられています。年2回の支部研修と合わせて多くの有意義な場を作っているところです。又、外部に向かっては、地元1市2町(春日部、杉戸、宮代)と調査士会が本年、災害時家屋被害認定調査に関する協定を締結し、8月には春日部市空家等対策協議会が開催し、支部より1名委員として参加します。社会変化のある時代なので、従来の春日部市への登記相談員派遣にプラスしてこれらにも対処していくことになってきました。

社会貢献事業を続けていく上で何より大事なものは本業です。最近仕事を通じて印象深いことが有りました。筆界特定申請をして、杭も入り、報酬もいただいてしばらくたった頃、依頼人より電話が有り「先代より隣接地とは何かともめ事があったが、筆界特定を通じて全て解決したので当方は万々歳、是非食事に招待したい」旨連絡がはいり、美味しいお酒をいただきながら色々なお話をし、ご馳走になりました。大変喜んでいただき、仕事をやって良かった(時間は長くかかりましたが) 調査士で良かったと思いました。

こういった良い経験もできる業界を今後も発展し、調査士が活躍していけるよう、微力ながら、支部運営をつうじて貢献して行こうと思います。どうぞ宜しくお願いします。

.....

## 支部長就任にあたって



草加支部

支部長 鈴木祥司

この度、支部役員会より推薦を受け支部総会にて支部長に就任いたしました鈴木祥司と申します。私事ではございますが、調査士補助者歴を含め調査士業務には45年以上携わって参りました。以前には、支部会計・副支部長・本会理事・支部監査等の役員を務めさせていただきました。

現在の草加支部は、草加市・八潮市・三郷市の調査士で構成されており、支部会員の年齢が35歳から80歳代と幅広い年齢層であり、支部会員数は50名です。

このような特性を持った支部であるため、支部内における情報伝達及び意見収集を積極的におこない、支部長会議で要望していくことが重要であると感じております。また、会員の結束を強め、支部活動の活性化に貢献して参りたいと思っております。

今後の調査士会繁栄のためには、若手調査士会員の活躍と経験豊富な年長者調査士会員の実務経験を継承することが必要不可欠です。意見交換と親睦の機会として、研修会・総会後の懇親会及び2年に一度、一泊二日の総会バス旅行を、今後に於いても開催してゆく所存です。

更に、上記のイベントに加え、会員のコミュニケーションの場として、新たな研修の開催も計画しております。

諸先輩方の支部活動を継承しつつ、世の中の変化に対応し、皆さまと一緒に活動して参りたいと思っております。

最後に、本会役員の皆様のご指導と支部会員の皆様のご協力を、お願いしまして支部長就任の挨拶とします。

.....

## 支部長就任にあたって



### 川越支部

支部長 齊藤 健司

この度、4月の支部総会・役員選任によりルー  
ルどおり支部長の大役が巡ってまいりました。

私は元々先頭に立つ柄ではありませんので、  
本会と支部の少しでも太いパイプになりたいと  
考えています。

支部運営に当たりましては、役員の方はもち  
ろん、会員の皆様のご理解とご協力を得ながら、  
肩肘を張らずに和気あいあいと取り組み、少し  
でも業務繁栄に繋がればと思っております。

.....

## ものづくりと土地家屋調査士



### 所沢支部

支部長 木林立男

今年度より所沢支部の支部長に就任いたしま  
した木林立男です。

私は北海道の昭和という当時人口4,000人の山  
の中の炭鉱町で、幼少から中学2年までを過ごし  
ました。

最近の地図を見て、ダムの下になっているか  
と思われたこの町を2年前登山の装備で探しに行  
き、自分が住んでいた所、通っていた小中学校の  
場所を発見することができました。砂利道はすで  
に廃道で藪となっており、建物はなく原生林に覆  
われていました。

この場所で子供時代を過ごした私はものづくり  
が好きだったこともあり、小学生のころには建築  
家になりたいと思っておりました。しかし、あまり  
美的センスがあるとは思えず、東京の夜間大学土  
木工学科に入学しました。

昼間はいろいろなアルバイトをし、後に橋梁・  
道路・下水道・公園等を手掛ける土木設計の会  
社で働きました。その後、旧住宅整備公団の土木  
施工管理の職に就きました。

土地家屋調査士の資格を取るために勉強をし  
ましたが、なかなか合格することができませんで  
した。そのおかげで一級建築士・一級土木施工管  
理技士等、多くの国家資格を取ることができまし  
た。昭和63年、念願が叶い土地家屋調査士試験  
に合格し開業、現在に至ります。

現在、土地家屋調査士、開発許可をメインに業  
務を行っています。今までの経験、資格が全部生  
かされたかたちになりました。

大きな敷地に住宅が立ち並ぶところ、また建て  
替えができるようにすることなど、土地家屋調査  
士の仕事は建築と直結しています。ほんのわずか  
ではありますが、街を作っている、地域に役立っ  
ているという自負があり、また、自分に一番合っ  
ている仕事であると思っています。

このたび所沢支部の支部長を務めることとな  
り、本会とのパイプ役、連絡調整役として会員間  
の親睦を深め、また、研修会等を聞き技術等の向  
上に努めていきたいと考えています。

.....

## 支部長就任にあたって



### 狭山支部

支部長 中村 明身 あきののぶ

本年度4月の支部定時総会におきまして、狭山  
支部長に就任いたしました中村明身と申します。

私が土地家屋調査士登録をしてから27年の月  
日が過ぎ去りました。十年一昔と言いますが、土  
地家屋調査士業務も様々な変化がありました。  
B4版の縦書き申請書(タイプライター、ワード  
プロセッサ)から始まり、全てが書面申請だった  
時代から、現在のオンライン申請は想像もつき  
ませんでした。ふと、昔の申請書や図面を見返し  
てみると、製作していた時代の懐かしい思い出

も甦ります。最近の記憶より、昔の記憶の方が鮮明に覚えていたり、書面作成に時間は費やしていたが、苦勞も笑いとなり歳月の流れを感じる今日この頃です。

初めての支部長となり分からないことばかりですが、支部役員の方々と共に、また支部会員の皆様方の力をお借りし、親睦、結束を更に深めていきたいと思えます。

2年間健康に留意し、本会と支部のかけ橋となり一生懸命励みますので、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

.....

### 就任にあたって



坂戸支部

支部長 島村 進

私は、本年4月に行われた坂戸支部総会において、平成29年度、30年度の坂戸支部長を仰せつかりました。坂戸支部は登録番号順に支部長を担当することになっておりますので、否応なしに支部長になってしまいました。しかし引き受けた以上はその責務をは果たしたいと考えておりますので、これから2年間よろしく願います。少し自己紹介をさせていただきます。

出身地 埼玉県川越市大字牛子 田んぼの地帯で、農家の二男として生まれました。

生年月日 昭和22年4月10日 満70歳です。

親兄弟 両親は他界、兄弟は6人ですが、すでに4人死亡、今は長兄と私だけです。

性格 温厚だと周りの人は言いますが、少し決断力が足りない自分では思います。

趣味 歌うことが好きで、たまに一人でもカラオケボックスに行きます。

### 仕事の履歴

大学を卒業後、都内にある電機会社に就職し、すぐに山形県米沢市にある工場に赴任し、約6年間務めました。その後東京本社に戻り、技術開発室というところに配属されました。しかし、性に合わなかったか、頭が悪かったせい、次第について行けなくなってしまい、悩んでいるうち体調を悪くしてしまい、ついに会社を辞めてしまいました。

その後、人間郡大井町(現ふじみ野市)にあった金井塚事務所に入れてもらい、主に司法書士の仕事をしながら、調査士の勉強を始めました。

昭和59年の調査士試験にやっと合格し、昭和60年4月に登録し開業しました。今年4月で32年になりました。

このたび、支部長を仰せつかったわけですが、すでに70才になっておりますので、体に気を付けて、他の支部役員さんの協力を得て、何とか、2年間頑張りたいと思っておりますので、どうかよろしく願います。

.....

### 就任にあたって



熊谷支部

支部長 齊藤 薫

この度、熊谷支部長になりました齊藤薫と申します。

熊谷支部は、埼玉県北部を拠点とした会員数80数名を有する支部です。支部内でも、熊谷・行田・深谷・寄居・本庄と5つの地区に分かれております。各地区に副支部長を配置し、各地区間同士の交流も多く、結束力の強い支部だと感じております。

過去の支部長経験者におかれましても、実力者が多く支部長の仕事に関してもご指導していただけると確信しております。

平成29・30年度の支部長就任にあたり、支部会員皆様のご協力をいただき、本会への要望や

本会からの伝達事項等に関し、遺漏なきよう注意し、職務にあたる決意です。

力不足と存じますが、2年間御指導・御鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。



考え方や問題点を本会に提供していくことを通して、今後も東松山支部が、元気で纏まりのある良い支部であり続けられるよう努力したいと思います。

どうぞ、ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



## 就任にあたって



東松山支部

支部長 吉野和夫

東松山支部の支部長を務めさせていただく吉野和夫です。

平成6年に土地家屋調査士として登録をし、東松山支部に23年所属させていただいております。

東松山支部は現在会員24名で、登録順では私がちょうど中間あたりになります。支部行事には、年配の会員さんから若年の会員さんまでご協力いただける、小規模ながら纏まりのある良い支部だと思っています。

会報に「就任にあたって」の寄稿を求められ、この原稿を書くこととなりました。正直、志しなど持ち合わせないままに、支部での順番で支部長に就任することとなった次第ですので、改めて決意や抱負などと問われると答えに窮してしまいます。

それでも、せっかく2年間支部を代表させていただくのですから、本会の現状や方向性をしっかりと支部会員に伝達すること、支部としての





埼玉土地家屋調査士会

# 第72回定時総会

日時 平成29年5月18日(木)

場所 さいたま市『清水園』

前広報事業委員 菊地 浩(志木支部)

平成29年5月18日(木)さいたま市『清水園』において、第72回定時総会及び式典が多くのご来賓の方々を迎え盛大に開催されました。

佐藤忠治会長挨拶の後、本総会における出席人数394名、委任状出席人数202名、総数596名が出席との報告を受け、議長団には雙木行雄会員(狭山支部)、橋本直樹会員(東松山支部)が選任され、議事録署名人に福島雄一会員(浦和支部)、相沢博会員(春日部支部)が指名され本総会は進行しました。会務と事業報告の後、提案された第1号議案から第7号議案まで慎重審議の後、全て滞りなく承認可決されました。尚本総会は役員改選の年にあたり、第6号議案の役員選任の件では会長選挙立候補者の所信表明の演説があり、選挙の結果、新会長に高柳淳之助会員(熊谷支部)が当選されました。

指名新副会長として高橋修会員(越谷支部)の指名があり、立候補により新副会長に古賀新生会員(志木支部)、廣居英夫会員(春日部支部)が選任されました。上記の他、理事、監事、予備監事、綱紀委員、予備綱紀委員の方々が選任されました。新役員、執行部による活躍により、更なる埼玉会の発展が期待されます。

また引き続きおこなわれました式典においては土地家屋調査士制度発展に永年寄与された功績を認められ、62名の会員が受賞されました。



佐藤忠治名誉会長



高柳淳之助会長



平成29年度役員一同

## 日本土地家屋調査士会連合会

# 第74回定時総会ならびに役員改選結果

日時 平成29年6月20日(火)・21日(水)  
場所 東京ドームホテル

広報事業部長 竹村博之(草加支部)

平成29年6月20日(火)・21日(水)の両日に「東京ドームホテル」において、第74回定時総会が開催されました。

議事に入る前に土地家屋調査士制度発展に寄与された功績を認められ、埼玉会から大谷和夫会員(大宮支部)が法務大臣表彰状を受賞されました。おめでとうございます。



今年は役員改選があり、総会構成員179人による選挙の結果、会長に岡田潤一郎(愛媛

会) 副会長には加賀谷朋彦(栃木会) 菅原唯夫(岩手会) 小野伸秋(岐阜会) 戸倉茂雄(山口会)の方々が選任されました。



また、選挙管理委員会委員長には埼玉会の佐藤忠治名誉会長が務められ厳正に執り行われました。佐藤名誉会長におかれましては、1日目の投票、2日目の開票と2日間に渡り選挙管理委員長の大役お疲れさまでした。



Geodetic Total Station GT Series



- ・世界最速！\*
- ・世界最小！\*
- ・世界最軽量！\*
- ・世界初！IoTへ対応
- ・クラス最高品質！
- \*モータードライブ搭のトータルステーションとして。2016年1月現在。

HiPer SR  
2周波GNSS受信機

- ・1人で手軽に簡単測量
- ・過酷な現場にも強い堅牢なボディ
- ・LongLinkデータコミュニケーション
- ・優れた耐環境性能IP67
- ・連続使用時間15時間以上を実現
- ・準天頂衛星システムに対応



IS IMAGING STATION  
IS3



イメージングステーションIS3はトータルステーションに専用のデジタルカメラを内蔵。リアルタイムの視準画像を使用して直感的な操作と安心した作業を実現します。また簡易スキャナー機能も搭載し、必要な3Dデータを効率的にスキャン出来る次世代型画像トータルステーションです。

測量CAD・土木CAD・建築CAD  
OA・設計測量関連製品・その他

HiPer V  
2周波GNSS受信機

- Vanguard TechnologyTM搭載
- GPS + GLONASS対応
- 軽量で頑丈なマグネシウム筐体
- Wi-Fiテザリングにも対応した完全ケーブルレスRTK観測を実現
- ボイスメッセージ機能搭載
- SD/SDHCメモリーカード対応



株式会社 フォーワン

〒342-0001 埼玉県吉川市上内川363-1

TEL 048-991-7868

# 日本土地家屋調査士会連合会・関東ブロック協議会 第63回定例総会

日時 平成29年7月9日(日)・10日(月)  
場所 軽井沢プリンスホテルウエスト

広報事業部長 竹村 博之

平成29年7月9日(日)・10日(月)の両日、長野県の「軽井沢プリンスホテルウエスト」において、関東ブロック協議会第63回定例総会が開催されました。

埼玉会からは高柳会長以下役員8名、関東ブロック協議会監事として出向している佐藤名誉会長、日調連に理事として出向している松本理事が出席しました。

総会は1日目が全体会議、懇親会、2日目が研修会という日程です。

総会に入る前に関東ブロック協議会笠原会長の挨拶に始まり、当番会である長野県会松本会長、ご来賓より長野地方法務局本田局長、日本土地家屋調査士会連合会岡田会長からご挨拶がありました。

全体会議は平成28年度会務報告、活動状況報告があり、議事の1番目収支決算報告に続き監査報告、埼玉会佐藤名誉会長による監事講評がありました。引き続き収支予算案、任期満了に伴う役員改選について協議され新しく東京会の野城宏会長が関ブロ会長に選任され、全ての議事が慎重審議により終了しました。

また次年度は神奈川県会が当番会に決定しております。

懇親会では、たいへん和やかに懇談し、親睦を深めました。

2日目の日程は研修会です。テーマは「役員心得」講師は全国土地家屋調査士政治連盟会長の横山一夫様でした。最近役員を引き受けてくれる方が少なくなった、会長は次の会長を、副会長は次の副会長を育てなくてはいけない等講義がありました。全国の会員数の4割を占める関東ブロックだけにとっても人数の多い定例総会でした。





## 自己紹介



川口支部  
市川 友博

はじめまして。平成29年1月に入会させていただきました川口支部の市川友博と申します。さて、私は大学を卒業後、不動産会社で5年間従事してまいりました。というのも、私の父が土地家屋調査士として開業しており、大学在学中から土地家屋調査士の存在を知っていたため、漠然と土地家屋調査士という仕事も含めて、不動産に関わる仕事がしたいという思いが強かったからです。結果、最初に土地家屋調査士を選択するのではなく、まずは不動産業界全体の流れがどのようなものなのか、土地家屋調査士はどのような形で関わっているのかということを感じたく、不動産売買仲介会社に就職することに決めました。

5年の月日が流れたある日、土地家屋調査士として開業していた父が「補助者を何人が増やして勝負をかける」というような話を持ち上がりました。私は心の中でこのタイミングだと思い、5年間勤めた不動産会社を退職し、補助者として父の事務所で働くことになりました。そして、補助者として3年目の昨年、土地家屋調査士の試験に合格することができました。

土地家屋調査士の仕事の中でも、土地の境界確認作業については、隣接地所有者との立会い業務が必要になります。いかに気持ちよく協力してもらえるかというのは、私のコミュニケーション能力にかかっているため、そこに土地家屋調査士としての仕事の難しさと面白さがあるのだと感じております。まだまだ未熟な私ですが、既にご挨拶させていただきました先輩の皆様、これから出会う先輩の皆様のご指導ご鞭撻を受けながら、一步一步成長していけたらと思います。

.....

## 自己紹介



熊谷支部  
川合 賢

はじめまして。平成29年1月20日に登録いたしました川合賢と申します。埼玉県北部の本庄市児玉町で、司法書士・行政書士と兼業で土地家屋調査士事務所を開いています。北か西へ15分ほど車を走らせると群馬県に入る県境の町で、群馬からの依頼が仕事の半分以上を占めています。地方色の強い地域にいますが、私自身はこの地域の出身ではなく、大阪の堺で生まれ18歳までそこで育ちました。その後、10年ほど東京にいて、結婚を機に妻の会社に近い児玉町に移り住み、現在に至ります。未だ土地勘がなく、依頼者から土地の大字を聞いても場所が思い浮かばないことも多々あります。

今年から土地家屋調査士業を始めましたが、高尚な動機で土地家屋調査士を目指したわけではありません。子供を二人授かり今後の生計を考えざるをえなくなり、地方でも需要がありそうな仕事だと考えて、まず司法書士の資格を取得しました。いざ司法書士の仕事に手を染めてみると、土地家屋調査士の領分に属する質問や依頼が舞い込むことが少なからずあり、土地家屋調査士の資格もとったほうが仕事の幅が広がるだろうし依頼者にとっても便利だろうと考え、土地家屋調査士を開業するに至りました。測量や調査士補助者の経験は全くなく、時間を見つけて測量の勉強と練習に励み、手探りで業務を進めている状況です。

土地家屋調査士を始めて感じたのは、仕事を通じて地域の歴史に触れる機会に恵まれていることです。調査を通じて土地や地理の変遷を学び、依頼者から過去の出来事や地名の由来を伺うことが多く、歴史好きの私としては好奇心を刺激されることが多々あります。今後、技術を磨き経験を積み、土地家屋調査士として恥ずかしくない仕事をしていけるよう努力する所存です。

未熟者ですが、皆様方のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



## 自己紹介



浦和支部

山村直己

はじめまして、この度埼玉土地家屋調査士会に入会しました山村直己と申します。年齢は34歳で、小学生2人と7月16日誕生の子どもの父親をしています。

新入会員の紹介ということでしたので、簡単ですがご挨拶をさせていただきます。私が土地家屋調査士という職業を知ったのは、20代の時に飲食店で働いていた時、当時の料理長から薦められたからでした。大学で土木系の学科を卒業していた為、測量士補は保有していたので、測量会社に入社して実務経験で測量士になろうと思っていると相談した所、「測量士補を持っているなら、土地家屋調査士の試験を受けるのはどう?」と言われたからでした。その料理長は、前職が不動産関係の仕事をしていたため知っていたそうです。

その後、土地家屋調査士法人の事務所にアルバイトで入社し、平成25年の試験に合格したのですが、ほんとうにこの仕事を一生の仕事にしているのか悩み、一度は土地家屋調査士業から離れて違う仕事をしたのですが、やっぱりこの業界でやっていこうと決意して、今に至ります。

土地家屋調査士の登録をしてみて、今まで補助者として業務をしていた時以上に責任をもって仕事に取り組んでいかなければと、日々実感しております。

土地家屋調査士の仕事は日々勉強をし続けなければいけない仕事だと思います。今後とも諸先輩方のご指導を賜りながら精進して参りたいと思います。

宜しくお願致します。



## 自己紹介



熊谷支部

松永貴弘

初めまして。この度、平成29年2月に入会しました熊谷支部の松永貴弘と申します。実は試験に合格したのは平成15年です。14年も経ってしまいました。

私は大学卒業後、都内の金物メーカーに勤めておりましたが、何か自分で仕事が出来たらと思い、畑違いではありましたが知り合いの外壁職人の親方に弟子入りをさせていただきました。しかし、不況の煽りか、仕事が激減してきて何か資格でも取っておかねばと考えました。建築現場で建物を調査している人を見かけ、「あの人は土地家屋調査士だよ」と親方から教わった事からこの資格を知りました。

「登記って何」という状態からでしたが、資格の本に「不動産登記のプロフェッショナル、独立開業可」なんて載っているので、「なかなか良さそうじゃないか、この資格にかける」と勉強を始めました。初めての試験では不合格、2回目の試験で運よく合格できました。

さて、どこかの事務所にお世話になって勉強させて頂こうと就職活動していた所、身内から反対され、ハウスメーカーに就職。住宅の営業マンとして約13年勤めてきました。しかし、土地家屋調査士への憧れを捨てきれない自分がいました。歳は今年で45歳。このまま営業マンでいるのか、土地家屋調査士になるのか、人生の分岐点として非常に悩みましたが、今の事務所の先生にお世話になることが決まり、ハウスメーカーを退職。土地家屋調査士として歩き出しました。経験、勉強も足りないので厳しい毎日ですが、充実もしています。

自分が目指す土地家屋調査士はご依頼者様、地権者様に信頼、安心、頼りにして頂けるようになることです。そのためには幅広い知識や経験が必要だと思いますので、常に研鑽し、先生や先輩方

のご指導を頂きながら、一日でも早く一人前の土地家屋調査士になりたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

.....

## 自己紹介



大宮支部

高木 佑樹

平成29年3月に入会した大宮支部の高木佑樹と申します。昭和61年大宮生まれ大宮育ちの30歳独身です。

入会以前は、川口支部の船津徳英先生の事務所で4年間補助者として、お世話になっておりました。実務はもちろんのこと、実務以外にも多くのことを経験させていただき大変感謝しております。

さて「私が目指す土地家屋調査士像」というテーマですが、今のところ『地道に実直にコツコツ』という感じですので、もう少し余裕が出てきてから目指すべき調査士像について考えてみようと思います。なので今回は、私の思ったこと、感じたことを書かせていただきます。

まず土地家屋調査士についてですが、一般的知名度がかなり低いと思います。かく言う私も船津事務所に雇われる前までは、まったく知りませんでした。「土地家屋調査士ってどんな仕事？」と聞かれることもしばしば。知名度の上昇は、社会的役割の認知、業務の遂行、新規会員や女性会員の増加、ひいては調査士会全体のさらなる発展と向上に繋がるものと考えられます。ただ知名度の上昇と一言にいても、方法は様々ですし、いきなり跳ね上がるものではないので、私自身も極小ながら少しずつ貢献していければと思います。

また喫緊の課題として、相続登記未了・空き家問題があり、全国規模の問題となっております。調査士の業務として、隣接地所有者に立会・確認を求めたいところ、空き家となって放置さ

れていたり、数次相続が発生していたり、所有者不明であったりと大きな障害となっております。早期の解決を望みたいところですが、法令等の見直しまで必要となる問題ですので、将来の解決のために、一つ一つの課題をクリアしていくことが重要であると考えます。

土地家屋調査士として、これから数十年歩んでいくことになると思います。諸先輩方のご指導を賜り、また他士業の方含め色々な分野の方たちとの交流を持ち、知識を深めながら、一個人として、一調査士として、成長していければと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

.....

## 私が目指す調査士



志木支部

小林 智毅

初めまして。平成29年3月に志木支部に入会しました、小林智毅(こばやしともき)と申します。よろしくお願い致します。

私は以前、大学院にて西洋古代史という、全く畑違いのことを学んでおりましたが、途中で挫折。たまたま大学の授業で測量士補の資格を取っていた為、測量会社へ就職したのがこの業界への第一歩でした。その後不動産仲介営業を経て、土地家屋調査士事務所へ就職。補助者として8年程勤務してきましたが、師事していた調査士の先生が引退したいとのことで、その業務を引き継ぐこととなりました。

この8年間で教えて頂いたこと、学んだことは、現在の私の支えとなっておりますが、それでもこれまでの補助者の立場と異なり、調査士としての責の重さを痛感し、またいかに今迄、漫然と日々を過ごしてきたのかと、後悔の日々を過ごしているところです。

そうはいっても調査士として独立した以上、自分で考え、判断し、その責を負っていかなければなりません。これからお客様のご期待にどう

応えるか。その答えは結局「研鑽」につきると思います。調査士業務に係る測量・法律の知識はもちろんのこと、権利登記や税制など幅広い分野の知識を蓄え、またコミュニケーション能力も特に磨いていきたい。色々な角度から、様々な提案をお客様にできるようになりたい。そう考えています。そして資格者としての「使命」を胸に、「公正」な立場で物事を判断していき、少しずつでいいから信頼を得ていく。それが私の目指す土地家屋調査士の姿です。

面にも対応できるような土地家屋調査士になりたいと思っております。

また、如何に専門用語を使わずに、一般の方に解かりやすい言葉で説明できるかも、理解して頂くための一つの方法だと思しますので、日々考え工夫していきたいと思っております。

補助者としての経験は長いですが、いざ自身で業務を行うと分からないことばかりです。諸先輩方どうぞ指導ご鞭撻のほどよろしく願いたします。

## 自己紹介



坂戸支部

新井 武男

平成29年4月から坂戸支部にてお世話になっております新井武男と申します。緑いっぱいときがわ町という小さな町の出身です。趣味は、仕事の都合で最近あまり行けてませんが、鯉釣りです。あまり知られていない釣りだと思いますが、大きいものは1mにもなります。目標は利根川で、このサイズの鯉を釣ることです。

私は、土地家屋調査士として仕事を始める前は、電気工事関係の会社、土木系のアルバイト、そして補助者として19年働いておりました。

補助者をしていて感じたことは、土地家屋調査士は依頼者の財産に関わる大変責任の重い仕事であること、測量、建物などに関する広い知識を持っていないといけないということでした。

そうした経験の中で、土地家屋調査士としての重要な業務の一つとして、境界立会い・筆界確認を考えております。境界立会いでは、筆界などについて、依頼主はもとより、隣接地権者等へ解かりやすく説明することが要求されます。隣接者が10人いれば皆さんいろいろな性格をお持ちです。結論から知りたがる方、順序よく細かい説明をしなければならぬ方など様々です。そういった方々の要求を敏感に察知し、どんな場





# トピックス

## 平成 29 年度ボウリング中央大会開催

平成 29 年 7 月 24 日(月)、浦和スプリングレーンズに於いて、平成 29 年度ボウリング中央大会が開催されました。参加者は、130 名を上回る人数が集まり大変盛り上がりました。結果は次の通りです。

団体の部(1チーム6名)			個人の部		
優勝	東松山	1629	優勝	花輪 直人(東松山支部)	168 167 335
2位	春日部	1585	2位	秋葉 圭介(埼玉支部)	170 157 327
3位	大宮 A	1583	3位	松下 伸之(春日部支部)	182 145 327
4位	志木	1567			
5位	草加	1532			
6位	浦和 B	1523			
7位	大宮 B	1501			
8位	埼玉	1480			
8位	上尾 A	1454			
10位	川越	1440			
11位	飯能	1419			
12位	越谷 A	1410			
13位	上尾 B	1409			
14位	狭山	1408			
15位	所沢	1379			
16位	川口	1322			
17位	熊谷 B	1283			
18位	熊谷 A	1282			
19位	浦和 A	1256			
20位	越谷 B	1207			
21位	秩父	1118			



団体優勝 東松山支部



個人優勝 花輪会員(2連覇!)

他にシニア賞、飛賞(7位、24位、25位、50位、75位、100位、125位)、BB賞、ストライク賞、スペア賞、ガーター賞も表彰されました。

試合終了後の懇親会では、表彰式が行われました。結果を話題に盛り上がり、団体の枠を超えて懇親を深めました。参加された皆様、誠にお疲れ様でした。また受賞された方々、おめでとうございます。

訃報

謹んでご冥福をお祈りいたします。



荻原 常良(85歳)  
平成28年12月14日ご逝去



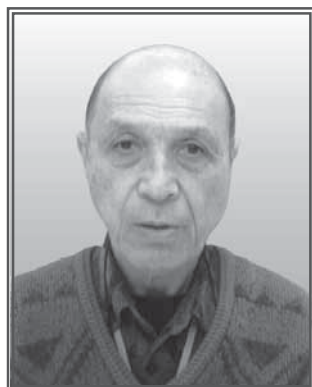
井上 晃一(87歳)  
平成29年1月14日ご逝去



青柳 求(66歳)  
平成29年2月10日ご逝去



栗原 八男(67歳)  
平成29年7月21日ご逝去



倉林 茂(67歳)  
平成29年8月20日ご逝去



## 編 集 後 記

役員改選年度最初の発刊です。

ご寄稿依頼、編集作業その都度の会議等あわただしく作業を進めて無事発刊となりました。

163号で表紙デザインを一新して今回の167号となります。会員の皆様には少しずつ慣れてきていただけたかと思えます。

新期本会役員、新期支部長、さらには新入会員の皆様と多数の方々にご寄稿願いました。

今後、会員皆様のご理解、ご意見をいただき、会員皆様によって創られた会報であるという認識で、努力していきたいと考えます。

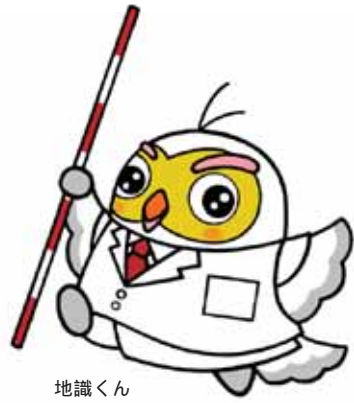
発刊にあたり、猛暑の中、お忙しい中ご寄稿いただきました皆様のご協力に心より感謝申し上げますとともに今後も広報事業部一同に対しましてご理解、ご支援を賜ることを心よりお願い申し上げます。

広報事業部長 竹村博之

### 広報事業部

廣 居 英 夫	龜 井 郁 臣
竹 村 博 之	尾 崎 博 則
吉 原 幸 弘	吉 澤 寛
橋 本 敦 史	長 坂 慎 吾
朽 原 雅 之	松 本 真 弓
菊 地 浩	長 沼 健

発 行 日	平成29年9月
発 行 所	埼玉土地家屋調査士会 〒330-0063 さいたま市浦和区高砂4-14-1
電 話	(048)862-3173
F A X	(048)862-0916
ホ ー ム ペ ー ジ	<a href="http://www.saitama-chosashi.org/">http://www.saitama-chosashi.org/</a>
E - m a i l	office@saitama-chosashi.org
発 行 人	高柳淳之助
編 集 責 任 者	廣居 英夫
広 報 事 業 部 長	竹村 博之
制 作	株式会社埼玉新聞事業社



地識くん